

三密回避展・休廊中

4月24日(金) ~ 5月5日(火) ※日曜・祝日休
12:00~19:00 (24日16:00より／最終日16:00まで)

全世界をCovid19 ウィルスが席卷中。日本でも緊急事態宣言が出され、イタリア、アメリカなどはさらに激しいロックダウンのもと我々は生活をしています。

全く見えなかったウィルスの顔も次第に見え、日本では三密を回避することを言われています。「ステイホーム」の声かけのもと、様々な自粛要請が出て「不要不急」の外出は避けるようになりました。

国立美術館や都立の美術館は三月初旬より休館し、現在は個人営業の画廊も休廊しています。

そんな中、改めてアーティストにとって作品をつくることとは、あるいはそれを見せていくということとは何かを小さいながらも考えていく機会をもちたいと考えました。

リモート、仮想現実で作品にふれることも一つですが、やはり実際の展示や展覧会なくしては、あるいはそれを見ずしてはられない部分が大きい。

ウィルスは怖いけれど、人間は人との関わりを切って存在はできません。「ステイホーム」もいいけれど、私たちはずっと家にいるのか。危険を回避しつつ、今後このウィルスとどう向きあっていくのか。

今後新しい価値観や世界が生じるのか、現時点ではわかりません。新たなより創造にあふれた世界を構築するためにもこの時期に公立美術館・海外の美術館で展覧会が休止になったアーティストの方々、海外で厳しいロックダウンの中いる方たちとともに三密を避けて、多くの方にはみていただけない展覧会として、しかし静かな抵抗の姿勢としてこの展覧会を成立させたいと願います。

基本、外からご覧いただけるように展示します。

危険と感じた場合は休廊いたしますのでおでかけいただく場合は事前にご確認ください。

GALERIE PARIS

〒231-0021 横浜市中区日本大通 14 旧三井物産ビル 1 階

企画	室井絵里(キュレーター)
参加作家	岡本光博 (京都)
	柵瀬茉莉子 (横浜)
	山部泰司 (京都)
	渡辺篤 (横浜)
	伊藤福紫 (ミラノ)
	松山修平 (ミラノ)
	Ewa Harabasz (ニューヨーク)
	Shingo Francis (ロサンジェルス)